

## 2. 石蓋土墳墓について

本調査で検出された2基の石蓋土墳墓の位置づけを行うため、福岡平野周辺の資料を収集した。入手可能なものに限ったためかなりの遺漏があることをあらかじめお断りしておく。

すでに小笹遺跡の調査報告において北部九州の石蓋土墳墓の集成と検討が行われているが<sup>註1</sup>、その中では時期を弥生時代後期から4世紀までと想定している。しかし、以来の調査例の増加によって再検討の必要性が出てきている。

福岡平野では一般に石蓋土墳の時期を決定し得るような副葬品、供献品の出土例はきわめてまれである。したがって近接する他遺構との関係、切り合い等を時期決定の手がかりとする場

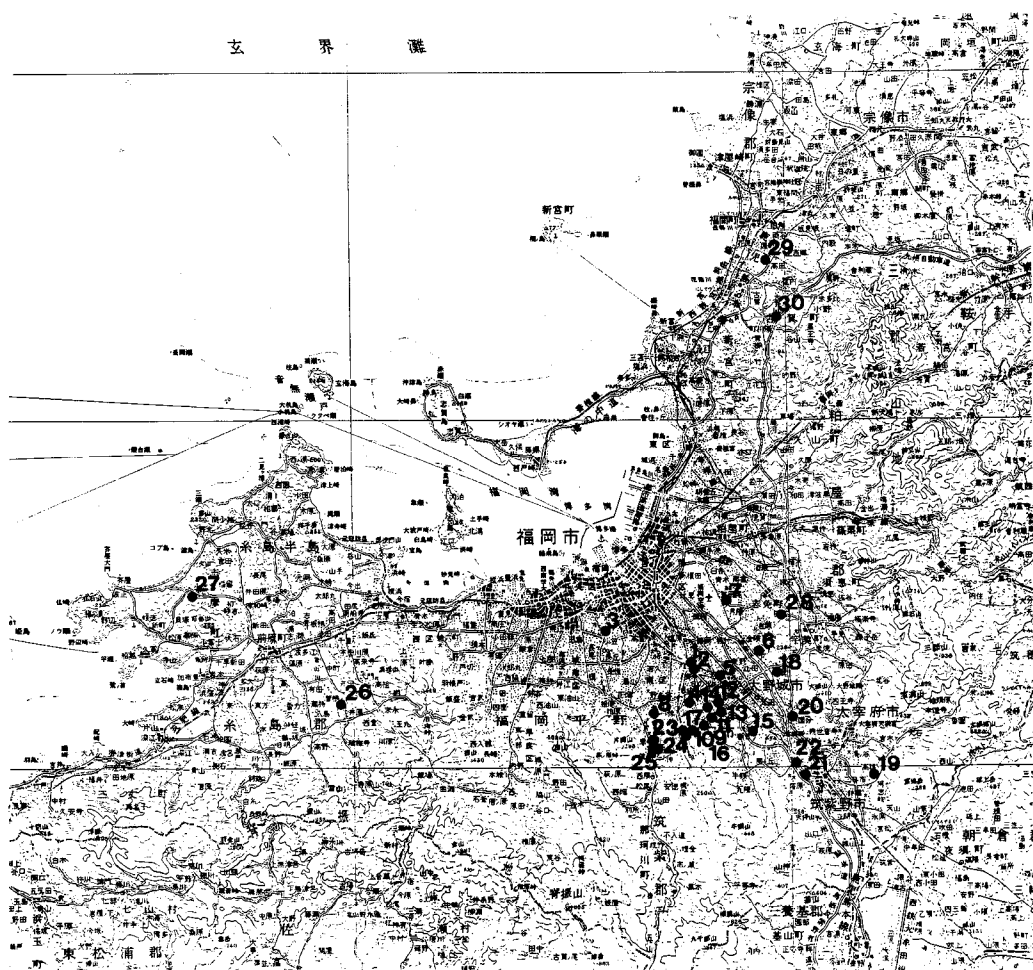


Fig. 45 福岡平野周辺の石蓋土墳墓分布図

合が多い。このような現状の中で本地域における石蓋土坑墓の初現は後期前半と推定されている小笹遺跡<sup>註2</sup>、宝満尾遺跡<sup>註3</sup>に求められており、その後の調査でもそれにさかのぼる例はない。その消長は千鳥22号墳<sup>註4</sup>などからこれまで5世紀前半までととらえられてきたが、最近調査された堤ヶ浦古墳群SK-4<sup>註5</sup>が6世紀初頭の年代を与えられており、この時期まで残存するものとみるべきであろう。

小笹遺跡を始めとする弥生時代後期の石蓋土坑墓は土坑墓、石棺墓を含めた群集墓中の形態として位置づけられるものである。そのなかで門田・辻田遺跡1号石蓋土坑墓<sup>註6</sup>や宝満尾遺跡13号土坑墓<sup>註7</sup>のように多量の副葬品を持つものもあり、その件数は石棺墓には及ばないものの決して他にひけをとるものではない。このような傾向は時代を下って弥生時代後期末～古墳時代初頭と考えられる例でもあまり大きな変化はないが、傑出した副葬品を有するものは見当たらなくなる。弥生時代後期から古墳時代初頭の段階で特徴的なことは石蓋土坑墓のみ、あるいは他の埋葬形態と共存する群集墓を形成すること、また表中では触れなかったが石蓋に粘土目張りを有し厚葬の傾向を持つことなどがあげられる。

古墳時代前期の石蓋土坑墓は古墳あるいは方形周溝墓の主体部、あるいは周溝外の副次的な埋葬施設としてのありかたを示し、小児棺として現れることも多い。中心主体に対して従属的地位を示す例が多い。なお、古賀町の千鳥古墳群22号墳では特異な例ではあるが石蓋を有する木棺墓が中心主体となっている。さらに同町深町2号墳は独立した墳丘を持つものの1号墳に従属するという例がある<sup>註8</sup>。今後留意すべきである。<sup>註9</sup>

6世紀初頭の堤ヶ浦古墳群SK-4は小児棺であり、2号墳の地山整形後周溝外に造営された可能性が極めて高く、2号墳に直接従属的な関係を持つと考えられる。<sup>註10</sup>

福岡平野の石蓋土坑は弥生時代後期に他の埋葬形態とほぼ等質的なありかたとして出現するが、古墳時代以降次第に古墳あるいは方形周溝墓の第2・第3主体部として従属的な性格に後退し、6世紀初頭までには小児棺にのみに限られるものとして消滅してゆくと考えられる。

以上のような流れの中で井尻B遺跡のSK-10、SK-12を検討してみる。本例では分布状態から低墳丘の方墳に伴うものとしてとらえられ、周溝外に従属的に設けられたみるべきだろう。その時期としては、いまだ明確ではないものの井尻B1号墳に先行する時期として古墳時代前期の範疇で押さえることが可能であろう。

註1 柳田純孝他 1973「小笹遺跡」福岡市教育委員会 註2 同 註3 山崎純男他 1974「宝満尾遺跡」福岡市教育委員会 註4 飛野博文他 1987「千鳥古墳群Ⅱ」福岡県教育委員会 註5 吉留秀敏 1987「堤ヶ浦古墳群」福岡市教育委員会、吉留秀敏氏教示 註6 井上祐弘他 1978「山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告第9集」福岡県教育委員会 註7 註3に同じ 註8 註4に同じ 註9 中間研志・石山勲 1978「九州縦貫道関係埋蔵文化財調査報告XXI」福岡県教育委員会 註10 註5に同じ

# 福岡平野周辺における石蓋土坑墓一覧表

※1	※2	※3	※4	※5	※6	※7	※8	
No	遺跡・遺構名	標高	蓋 石	墓 坑	土 坑	遺 物	備 考	文献
福岡市								
1	井尻		板状結晶片岩		?×0.4×0.4	?	底面に赤色顔料?断面観察	1
2	井尻B遺跡S K-10	14.3	板状泥岩質3	(2.3×1.3)隅丸方形	1.9×0.5×0.3N129°E不整長方形	無	成人 頭位北東	2
	S K-12	14.4	板状泥岩質2		1.8×0.8×0.2~0.25N41°E 不整長方形	板状鉄器 土器片	成人 頭位南東	
3	小笹遺跡1号	37.7	板状(3)		1.23×0.21~0.3×0.39不整長方形	無	小児もしくは横臥弥生後期前半	3
	2号	35.6	板状花崗岩4		0.95×0.55×0.35長楕円形	無	小児 棺内埋土	
	3号	35.1	板状花崗岩割石4		0.98×0.25×0.25隅丸長方形	無	小児 棺内埋土	
	4号	35.1	板状砂岩,花崗岩7		1.70×0.50×0.35長楕円形	鉄鏃1	成人 頭位西	
	5号	35.1	板状花崗岩割石5		1.11×0.44×0.33長楕円形	無	小児	
	6号	35.0	砂岩,花崗岩割石4		1.07×0.48×0.30隅丸長方形	無	小児 棺内空洞	
4	日佐原遺跡						13基	4
5	雄崎隈石蓋土坑其一		板状(2)		(0.84)×0.36×0.42長方形	無	側壁,石蓋裏にベンガラ	5
	其二		板状花崗岩(2)割石		1.57×0.34×0.27長方形	弥生式埴形土器	成人 床面に少量の赤色顔料	
	其三		板状花崗岩結晶片岩(4)				石蓋裏に赤色顔料	
6	堤ヶ浦古墳群2号墳周溝外S K-4	50.2	花崗岩塊石4	(1.85×1.1)×0.1長方形	1.1×0.5×0.5N82°W隅丸長方形	無	小児 頭位東	6
7	宝満尾古墳丘下石蓋土坑墓		板状多種(4)礫片積	(1.77×1.25)×0.18長方形	1.38×0.38~0.3×0.15S70°W長方形	勾玉2 管玉17	小児 頭位東	7
	宝満尾遺跡B地点1号土坑墓	25.1	板状花崗岩,砂岩(4)	(0.56×0.91)×0.25長方形	(1.70×0.48×0.25)N32°E長方形	土器片1	成人 石蓋内面赤色顔料	
	13号土坑墓	26.4	滑石,片岩,砂岩板状7		2.11×0.65×0.42N71°E長方形	素環頭刀子1棺外	成人 頭位西 石棺と同時埋葬	
8	老司古墳第5主体部							8

## 春日市

9	一ノ谷遺跡1号土坑墓	33.7	板状花崗岩6	(1.95)×0.7長方形	1.78×0.6×0.3舟形		成人頭位北東 北東底面酸化鉄	9
10	池ノ下遺跡						2基	10
11	大南遺跡						2基	11
12	白玄社遺跡						13基	12
13	西平塚遺跡1号	29.4	板状花崗岩割石(6)	(2.0×1.1)×0.6長方形	(1.60)×0.38~0.25×0.45不整長方形	無	成人	13
	2号	31.1	板状8	2.5×1.0×0.5不整長楕円形	1.9×1.0×0.3N8.5°W不整長方形	無	成人 頭位小口に立石 頭位北	
14	豆塚山遺跡						1基	14
15	向谷北遺跡1号	34.5	板状花崗岩(4)	2.4×1.5×0.2隅丸長方形	2.0×0.75×0.45略長方形	無	成人 頭位北東	15
	2号	45.4	板状花崗岩(2)	(2.3)×1.0×0.1隅丸長方形	1.8×0.6×0.5略長方形	無	成人 頭位北西	
	3号	34.4	板状花崗岩7	2.4×2.0×0.15隅丸方形	1.9×0.7×0.4略長方形	ヤリガンナ1棺外	成人 頭位北西	
	4号	34.2	板状花崗岩(1)		1.3×0.6×0.4隅丸長方形	無	小児 頭位東	
	5号	34.0	板状花崗岩(4)	2.1×(0.5)×0.2略長方形	2.0×0.5×0.5略長方形 横口閉鎖式	無	成人 頭位西	
	6号	34.0	板状塊状花崗岩5	1.5×1.0×0.2隅丸長方形	1.1×0.6×0.3略長方形	無	蓋石2枚裏面に赤色顔料 小児 頭位北西	
	7号	33.8	板状花崗岩(5)	(2.0×0.9)×0.2隅丸長方形	(1.5)×0.5×0.3略長方形	ヤリガンナ棺外	成人 蓋石裏面に赤色顔料	
	8号	33.6	板状花崗岩(2)	上段(1.9×1.0)×0.3隅丸長方形 中段(1.2×0.9)×0.15不整長方形 下段(1.0×0.7)×0.1 隅丸長方形	(0.8×0.4)×0.2略長方形	墓坑内土器1	小児 底面, 棺外部分的に赤色顔料	

※1	※2	※3	※4	※5	※6	※7	※8	
No	遺跡・遺構名	標高	蓋 石	墓 塚	土 塚	遺 物	備 考	文献
	9号	34.2	板状, 塊状花崗岩 5	1.8×0.8×0.1 隅丸長方形	1.6×0.3×0.4 隅丸長方形	無	成人 蓋石一部, 底面に赤色顔料	15
	10号	54.0	板状, 塊状花崗岩(5)	2.4×1.0×0.2 隅丸長方形	1.9×0.5×0.4 不整長方形 足下掘り込み式	無	成人 頭位北 北側に赤色顔料	
	11号	33.9	板状花崗岩 6	2.4×1.8×0.3 隅丸長方形	1.7×0.6×0.4 不整長方形	無	成人 底面に多量の赤色顔料	
	12号	33.3	板状花崗岩(1)	(1.8×0.6)×0.1 隅丸長方形	(1.5)×0.9×(0.2) 長楕円形	無	成人	
	13号	33.4	板状, 柱状花崗岩(4)	1.8×(0.8)×0.6 隅丸長方形	1.4×0.5×0.3 隅丸長方形	無	頭位北 東側棺外, 小口に顔料	
	14号	33.2	板状, 柱状花崗岩 6	(2.4×1.1)×0.2 長方形	1.9×0.4~0.6×0.4 隅丸長方形	土器 1 石蓋上	成人 蓋石裏面に赤色顔料	
	16	門田遺跡雲棺墓群石蓋	31.4	板状花崗岩 5	2.4×1.5×0.1 隅丸長方形	2.2×0.7×0.3 N80°W長楕円形	無	
17	門田遺跡辻田地区1号	26.0	板状花崗岩 4, 土器蓋	1.65×0.76~0.63 長楕円形	1.55×0.45×0.3~0.4 S21°E隅丸長方形 足下掘り込み式	ガラス小玉700	成人 頭位南 弥生後期中頃	17
	2号	32.5	塊状花崗岩 2		0.76×0.19×0.29 N49°W隅丸長方形	無		

## 大野城市

18	中・寺尾遺跡1号 2号	27.7	板状 5 (1)	2.65×1.40×0.55長方形	1.90×0.3×0.55 N32°W 長楕円形	無	成人 頭位南南東 弥生後期 石蓋一枚のみ残	18
----	----------------	------	-------------	-------------------	--------------------------	---	--------------------------	----

## 太宰府市

19	菖蒲浦古墳群1号墳6号主体部 7号主体部	61.9 62.2	板状花崗岩 4 板状花崗岩 6	2.5×1.5×0.8 隅丸方形 2.5×2.0×1.8 隅丸方形	1.36×0.25~0.4×0.35舟形 1.7×0.2×0.35×0.2 舟形	無 無	小児 頭位東 小口に板古墳築 成当初 粘土目張上に赤色顔料 小児 頭位東 粘土目張上に赤色顔料	19
20	成屋形遺跡1号	+2.5	花崗岩(2)	1.4×(1.0)×0.5 長方形	0.95×0.4×0.30 W30°N 楕円形	無	小児 頭位南東 土坑底面南東側に赤色顔料	20

## 筑紫野市

21	古剣1号墳下1号 2号	43.5 43.8	板状玄武岩・花崗岩3 板状5	(1.17)×1.16×0.25不整形 1.26×1~0.85×0.45不整長方形	0.65×0.42×0.22~0.33長円形 1.02×0.26~0.31×0.22舟形	無 無	小児 頭位西 弥生 土坑床面東へ24°傾く 小児	21
22	唐人塚1号墳下1-11号 1-12号 2号墳下2-2号 2-4号 2-7号 5号墳下5-1号	47.2 46.8 47.2 47.1 46.3 47.0	板状花崗岩(2) 無 板状花崗岩割石3 板状花崗岩割石6 板状花崗岩割石3 柱状花崗岩8	1.2×1.1×0.45不整形 2.0×1.1×0.3隅丸長方形 (0.2×0.9)×0.2長方形	1.27×0.61×0.40 N46°W不整長方形 (1.70×0.52×0.50) N66°W長方形 0.95×0.45×0.30 S65°E (木棺裏込あり) 1.5×0.29×0.26 S88°E 長方形 1.8×0.25~0.35×? S19.5°W長方形 1.75×0.43×0.30 N26°E 不整長楕円形	無 無 無 刀子1 土師器甕2石蓋上 無 刀子1	小児? 成人 頭位北西 小児 頭位東南東 成人2体人骨遺存 成人 成人 頭位北西	22

## ●筑紫郡那珂川町

23	井河古墳群7号墳周溝外1号 2号	36.6 34.3	板状 3 塊状 5	0.9×0.7×0.1不整形 1.5×1.0×0.3不整楕円形	0.6×0.4×0.5不整楕円形 0.8×0.3×0.3不整長楕円形	無 無	小児 小児	23
24	恵子遺跡1号溝底1号	37.9	板状 7	1.2×(0.4)×0.05不整長方形	1.0×0.2×0.2長方形	ヤリガンナ1	小児 西側赤色顔料散布 頭位西 溝は方形周溝墓?	24
25	恵子若山遺跡方形周溝墓外1号	48.1	板状、柱状花崗岩(3)		1.55×0.42×0.3 N40°E 角状	無	成人? 頭位東 4c末?	25

※1	※2	※3	※4	※5	※6	※7	※8
No	遺跡・遺構名	標高	蓋 石	墓 塚	土 塚	遺 物	備 考

#### 糸島郡前原町

26	井原上学遺跡1号	43.9	板状花崗岩、片麻岩5	1.83×1.21×0.22長方形	1.45×0.48×0.27N22.5°E 長方形	桶状漆被膜	成人 頭位南 一辺12mの墓域	26
	2号	44.3	砂岩・柱状花崗岩4	1.38×(1.17)×0.15 不整隅丸長方形	1.21×0.43×0.2N34°E 不整長方形	南側石枕	頭位南 床面粘土張	

#### 糸島郡志摩町

27	熊添遺跡5号棺	33.9	板状(2)	(0.9)×0.9×0.1 隅丸方形	(0.5)×0.15~0.2×0.35	無		27
----	---------	------	-------	--------------------	---------------------	---	--	----

#### 粕屋郡志免町

28	七夕池南遺跡1号	39+	(2)	(1.6×1.2×0.05) 楕円形	1.15×0.6×0.42 長楕円形	ヤリガンナ1	小児 1~6号墓は同一墓群	28
	2号	39+	3	(1.6)×0.97×0.9 長方形	1.09×0.48×0.27 長楕円形	無	小児	
	3号	39+	4	1.67×1.22×0.40 長方形	1.18×0.40×0.33 隅丸長方形	無	小児	
	4号	39+	6	2.58×1.77×0.34 長方形	1.81×0.45×0.38 隅丸長方形	無	成人	
	5号	39+	6	2.62×2.25×0.25 長方形	1.77×0.50×0.46 長方形	無	成人	
	6号	39+	(1)	(1.1)×1.70×0.18 隅丸長方形	(0.65)×0.65×0.50 隅丸長方形	無		

#### 粕屋郡古賀町

29	千鳥古墳群22号墳第1主体部	22.8	板状	上段45.8×3~3.8×0.15 不整矩形 中段4.0×2.4×0.2 隅丸長方形	3.3×0.9×0.2 長方形 木棺内法 2.2×0.4	金銅製耳飾1対 ヤリガンナ1	成人 中段前方床面および木棺 床面に小礫 天井石下面にベンガラ付着	29
	1号石蓋木棺墓	22.9	板状(3)	3.9×1.3×0.5 隅丸長方形	木棺内法 3.1×0.8 長方形	ヤリガンナ1 矛 鉄斧各1	成人 床面東側に小礫	
30	深町2号墳	64.4	板状青色砂岩2	2.45×1.2×0.2 略長方形	1.16×0.54×0.25N1.0°W 略楕円形	無	小児 方墳 布留古式壺棺に先行 1号墳とはほぼ同時	30

※1：Noは分布図の番号。 ※2：名称は報告者にしたがった。ただし「石蓋土塚」は省略。 ※3：メートルで表現し、小数点以下第2桁を四捨五入した。石蓋上面の標高を示す。 ※4：カッコ内は現存数。形状の標記は統一した。 ※5：ここでは石蓋の覆わない部分をさす。長×幅×深さをメートルで表現する。数値は報告者にしたがい、ないものについては筆者が実測図から起こして小数点以下第2桁を四捨五入した。カッコ内は現存値、あるいは復元値。形態については報告者にしたがった。 ※6：ここでは石蓋の覆う施設をさす。長×幅×深さをメートルで表現する。数値は報告者にしたがい、ないものについては筆者が実測図から起こして小数点以下第2桁を四捨五入した。カッコ内は現存値、あるいは復元値。形態については報告者にしたがった。 ※7：棺内遺物以外についてのみ位置を表記した。 ※8：基本的に報告者にしたがった。小児、成人の別は報告のないものについてのみ土塚の数値から判断した。

#### ◎ 文 献

(1)中山平次郎 1924「井尻の弥生式遺跡」考古学雑誌14-12,同1926「井尻及び寺福童の甕棺」考古学雑誌17-12 (2)本報告 (3)柳田純孝他 1973「小笹遺跡」市教委 (4)鏡山猛 1954「環溝住居跡小論四」史淵78 (ただしこの資料は実見していない) (5)中山平次郎 1931「雑餉隈駅付近に発見せる石蓋土塚と無蓋土塚」考古学雑誌21-9 (6)吉留秀敏 1987「堤ヶ浦古墳群」市教委, 吉留秀敏氏教示 (7)山崎純男他 1974「宝満尾遺跡」市教委 (8)吉留秀敏氏教示 (9)宮小路賀宏他 1969「一の谷遺跡」春日町教委 (10)丸山康晴氏, 平田定幸氏教示 (11)同 (12)松岡史, 亀井勇 1966「伯玄社遺跡」県教委, 春日町教委 (詳細未報告) (13)前田義人, 馬渡圭子, 伊崎俊秋 1981「西平塚遺跡・ナライ遺跡」春日市教委 (14)10に同じ (15)丸山康晴, 平田定幸 1982「春日地区遺跡群Ⅰ」春日市教委 平田定幸氏教示 (16)佐々木隆彦他 1978「山陽新幹線第6集」県教委 (17)井上裕弘他 1978「山陽新幹線第9集」県教委 (18)川述博他 1977「中・寺尾遺跡」大野町教委 (19)森田勉他 1976「太宰府町の文化財第一集・宮浦浦古墳群」太宰府町教委 (20)三野章 1968「成屋形遺跡」県教委, エーザイ株式会社 (21)中間研志 1978「九州縦貫道XXIV」県教委 (22)川述昭人, 森田勉, 平ノ内幸治 1977「九州縦貫道XVIII」県教委 (23)沢田康夫 1983「井河古墳群」那珂川町教委 (24)茂和敏他 1986「恵子遺跡群」那珂川町教委 (25)高橋徹他 1975「恵子若山遺跡」恵子遺跡調査会, 東洋開発株式会社 (26)岡部裕俊 1987「井原遺跡群」前原町教委 (27)浜田信也 1984「熊添遺跡」志摩町教委 (28)上野精志 1974「七夕池遺跡」志免町教委 (29)飛野博文他 1987「千鳥古墳群Ⅱ」県教委 (30)中間研志, 石山勲 1978「九州縦貫道XXI」県教委